

製品名: RPA135 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17335**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	125kDa

抗原情報

遺伝子名	POLR1B
別名	POLR1B; DNA-directed RNA polymerase I subunit RPA2; RNA polymerase I subunit 2; DNA-directed RNA polymerase I 135 kDa polypeptide; RPA135
遺伝子 ID	84172.0
SwissProt ID	Q9H9Y6
免疫原	ヒト RPA135 の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

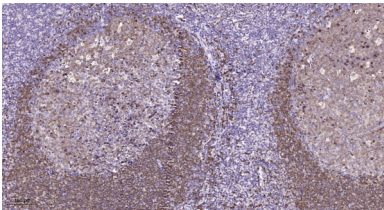
真核生物の RNA ポリメラーゼ I (pol I) は、リボソーム RNA (rRNA) 遺伝子の転写と、リボソームの主成分である rRNA の生成を

担っています。pol Iは、種によって異なりますが、6~14個のポリペプチドから構成される多サブユニット酵素です。pol I複合体の大部分は、酵母における2つの最大のサブユニットである Rpa1 と Rpa2 に由来します。POLR1B は Rpa2 と相同性があります (Seither and Grummt, 1996 [PubMed 8921381])。[OMIM 提供、2008年3月],触媒活性:ヌクレオシド三リン酸 + RNA(n) = ニリン酸 + RNA(n+1),機能:DNA依存性RNAポリメラーゼは、4つのリボヌクレオシド三リン酸を基質としてDNAからRNAへの転写を触媒します。リボソームRNA前駆体を合成するRNAポリメラーゼIの2番目に大きいコア構成要素。ポリメラーゼの触媒活性に寄与し、最大のサブユニットと共にポリメラーゼ活性中心を形成すると提案されている。Pol Iは可動性要素で構成され、RPA2は中央の大きな溝を持つコア構成要素の一部であり、おそらくは溝を開閉するために移動するクランプ要素である。類似性:RNAポリメラーゼβ鎖ファミリーに属する。サブユニット:少なくとも13個のサブユニットからなるRNAポリメラーゼI (Pol I) 複合体の構成要素。 ,

研究分野

プリン代謝;ピリミジン代謝;RNAポリメラーゼ;

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。